

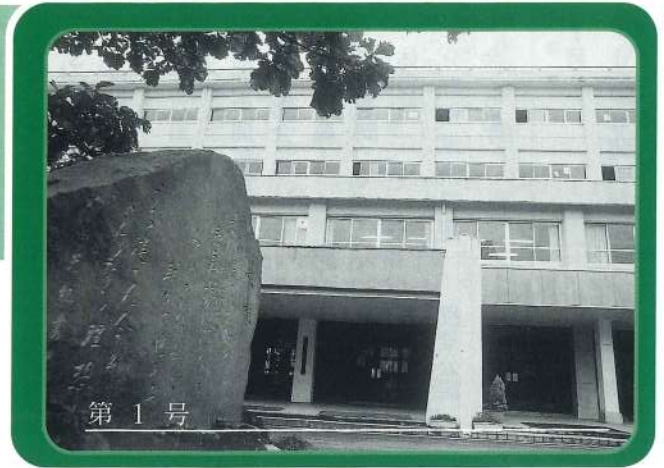


柏樹会報

神奈川県立柏陽高等学校同窓会会報

平成18年12月1日発行

発行所：神奈川県立柏陽高等学校 同窓会 柏樹会
神奈川県横浜市栄区柏陽1-1 県立柏陽高等学校内
TEL (045) 892-2105
http://www.d8.dion.ne.jp/~hakuzyu
印刷所：株式会社サラト http://www.salat.co.jp/



柏陽のその所に居て、衆星のこれにむかうが如く

輝く営みが幾星霜。蒼天に光る諸星が、あたかも一点を極に回転するかの如く、新たに、この学舎に集う人々を通し、柏陽の営みが永遠に受け継がれる。

今日まで、この学舎を巣立っていった先輩諸氏が社会の様々な分野で活躍される姿が、現在に学ぶ生徒の勇気であり、これから柏陽を目指す少年・少女の希望の灯火でもあります。



第12代校長

佐藤 春夫

柏陽を絆として紡がれた、煌々と輝く営みが幾星霜。蒼天に光る諸星が、あたかも一点を極に回転するかの如く、新たに、この学舎に集う人々を通し、柏陽の営みが永遠に受け継がれる。

今日まで、この学舎を巣立っていった先輩諸氏が社会の様々な分野で活躍される姿が、現在に学ぶ生徒の勇気であり、これから柏陽を目指す少年・少女の希望の灯火でもあります。

国際化と個性化を過度に歪曲化した現代社会は、社会性の喪失とともに、かつて非難された受験競争とはまた全く異なる新たな激しい生存競争、価値観の多様化と社会秩序の歪みを生み、燎原の火が如く、未熟な青少年の心を迷走させている。格差社会と揶揄されるこのようなきにこそ、柏陽にあつては、艱難汝を玉にするの例えもあるように、幾多の試練を乗り越えられ強い意志と勇気を持った青年に育ててあげたい。

柏陽の教育が滄海の一粟であろうとも、これからの時代や社会の進歩に適応できる人間性に富んだ魅力溢れる人格者、社会に積極的に参画し、貢献できる創造性豊かな人材、勇気ある未来の先導者を育成してまわりたい。こうした意味でも、未来社会を創造する、曠世の才を輩出することも大切



発刊にあたって



柏樹会 会長

堀 章一
(第3期生)

柏樹会会員のみなさま、お元気ですか。私は柏樹会会長の堀章一と申します。柏陽高校を卒業してはや30年を過ぎてしまいました。最近、柏樹会の仕事で母校に行く機会が多くなり、校舎の配置や学校周辺の様子が変わっていて、時の流れを感じております。在学当時、大船駅から天神橋までバスで行き、校庭の隅にある門から校庭を通って昇降口に入ったものですが、今はその門も閉鎖されてソフトボール部の元気な声がか

聞こえています。また、消防学校は移転して県の施設が建ち、校庭から見えた「柏陽連峰」と呼んでいた双子山は住宅地になっています。さらに、最近では本郷台駅のプラットホーム前の山が崩され、マンションが建つという事で驚くことばかりです。

しかし、玄関前にある校歌の歌碑と柏の木は当時のままです。理科の齋藤先生のお話によれば、柏の木は冬になると葉は枯れて茶色になるが、翌年の春に新芽が出てから枝を離れて落ちる、とのこと。つまり、「引き継いで次の世代に渡す」ということなのでしょう。今年で創立40周年を迎える母校も学校行事や部活動などを後輩に引き継いで伝統校として成長していつてほしいと熱望しています。本会の会則第2条に「母校の発展に協力する」という目標を達成すべく、柏樹会を

挙げて母校を応援したいと考えております。各界でご活躍の会員のみなさまのご援助をいただきたいと思います。

柏樹会では、平成14年に名簿を作成したときにお世話になりました、(株)サラトさんのご協力で初めて会報を発行することになりました。3年前に原稿を集めて準備したのですが、肝心の編集作業が進まずに発行が大幅に遅れてしまい申し訳ございませんでした。多くの会員や先生方のおかげで、なんとか形になりました。本当にありがとうございました。

これからも柏樹会が発展していくようがんばりますのでよろしくお願ひいたします。最後になりましたが、会員の皆様のご健康と益々のご活躍をお祈りしております。

母校日誌

平成18年度 年間行事

年間行事(2期制) 前期:4月から9月 後期:10月から3月
 文化祭・体育祭 同年度実施復活!
 昭和54年(第11期生が3年生のとき)から隔年実施になっていた文化祭と体育祭は平成18年度より両方実施することになりました。

【前期】

- 4月 始業式
入学式
部活動紹介
社会見学(2・3年)、
宿泊研修(1年)
進路説明会(3年)

- 8月 球技大会
保護者面談
進路説明会
(1・2年保護者)
- 8月 夏期講習
部活動合宿
防災訓練

- 12月 第2回学校説明会
生徒総会
生徒会役員選挙
国際理解講演会
保護者面談
後期中間試験

- 5月 日本科学未来館
見学(1年)
3年実力試験
学級懇談会

- 9月 前期末試験
文化祭
前期終業
芸術鑑賞会

- 1月 1・2年実力試験

- 6月 前期中間試験
生徒総会
防災訓練
面談週間
体育祭
分野別進路説明
会(2年)

【後期】

- 10月 後期始業
2年修学旅行
3年実力試験
授業公開

- 3月 1・2年学年末試験
卒業式
球技大会
合唱祭
終業式

- 11月 教育実習
防災訓練

- 7月 1・2年実力試験



部活動・委員会報告

運動部

- | | | |
|---|--|--|
| 陸上競技
ラグビー
レスリング(男)
野球
テニス(男・女)※
ソフトテニス(男・女)※ | サッカー
バレーボール(男・女)
水泳(男・女)
剣道(男・女)
ソフトボール
バスケットボール(男・女) | 卓球(男)
バドミントン(男・女)
ハンドボール(男)
空手同好会 |
|---|--|--|

※テニスについては、現在の高等学校体育連盟の専門部の名称に合わせて、「硬式テニス部」をテニス部、「軟式テニス部」をソフトテニス部としました。

部活動 最近の 主な実績

- 陸上部**
 男子400Mハードル 関東大会出場(平成17年度)
 男子やり投げ インターハイ出場(平成17年度)
- テニス(女子)**
 関東大会団体戦出場(平成17年度)
- レスリング**
 関東大会出場(平成17年度)
- バドミントン(男子)**
 関東大会出場(平成17年度)
- 水泳部**
 男子背泳 インターハイ出場(平成18年度)

文化部

- | | |
|---|---|
| 合唱
理科(化学、生物、天文)
数学
美術
文芸
吹奏楽 | 写真
茶道
演劇
書道
クラシックギター
デザインワーク |
|---|---|

- 吹奏楽部**
 東関東大会出場(平成16年度~18年度 3年連続)
 アンサンブルコンテスト東関東大会出場(平成16年度)

- 写真部**
 「女神が見つめる野球展(主催:読売巨人軍)」入選

委員会 報告

- 生徒会執行部**
 本年度は体育祭と文化祭の同時実施で大忙しでした。
- 保健委員会**
 文化祭で「睡眠」について発表しました。

クリスマスコンサート

吹奏楽部 12月23日(土) 14時開演 柏陽高校 体育館

合唱部&クラシックギター部

12月24日(日) 14時開演 柏陽高校 4階多目的ホール



柏の思い出

雨宮 清

子供の頃、端午の節句の柏餅に因んで、母がこんな話をしてくれたことがある。
 柏の葉も秋になると枯れるが、他の落葉樹と違って、枯れた葉が秋に枝を離れることはない。

健康な柏の木であれば、枯れた葉は厳しい冬も烈風と寒気に耐え、辛抱強く枝にしがみついて、春に芽吹く幼い芽を守っている。そして春が来て、世継ぎの新しい芽が吹くと、さも安心したかのよう

に枝を離れて落ちて行く。この姿は人の親がわが子を思う心情にも通ずるものがある。凡そこんな話だった。
 あれから四十年の月日が過ぎた昭和四十六年九月、私は柏陽高校の二代校長に補せられた。赴任の日、車から降りた私の頭上に、見事な柏の大樹が繁っていた。幼き日の母の話が脳裏に浮かび、この植樹をされた初代校長のご心情を偲び、これからの仕事に処する態度を啓示されたような気持ちになつて初めての玄関を入った。

この年度、柏陽高校は創立五周年を迎え、五月には初代校長磯井先生の下で盛大に創立五周年兼校舎落成の記念式典が挙行された。そして校内には「最早草創期ではない」こんなスローガンが流れていた。

今までは確かに学校の草創期だった。人の心にも新設の学校だからと言う甘えもあった。今年度からはこんな気持ちは捨てて真摯な努力をしよう。こんな気概が校内に満ちていた。柏陽高校の今日の隆盛もこんな所に源流があったのかもしれない。

さて、この年度の在校生は一年生が五期生、二年生が四期生、三年生が三期生だった。この方々も今はもう五十歳に手が届こうとしているが、人生の難関は四十歳台の半ばから五十歳台の半ばまでの十年間ではないかと思う。仕事の上の責任は益々重く、家庭では子供の教育に悩み、自分の健康にも心労が深まる世代だが、春を待つ柏のように辛抱強い健康を心からお願ひしたい。

経験を通して健康と気力

鈴木 克利 (英語)

教職歴四十六年。小・中・高と校種の異なる職場を経験してきた私にとつて、二十五年間過ごした柏陽高校での思い出は感慨もひとしおである。昭和四十四年(一九六九年)に赴任した二十名近くの先生方(現校長の佐藤春夫先生も含む)の協調と励まし合いが柏陽草創期を形成し、その十年後に横浜南部学区でのトップ校にまで押し上げる要因となったこととは否定できないであろう。平成に入り現役で東大に九名合格したことは快挙であり柏陽時代における進学面での忘れ難い思い出の一つであるが、地域の入達・家庭・生徒・教師が作り出す良き社会環境が現在の柏陽を築きあげたことを認め感謝しなければならぬと思う。

私は定年退職後県内のある私学に勤めているが、「必要で信頼される人となる」が校訓として生徒に浸透している。「生涯現役」をモットーとして七十歳を迎える現在でも教壇に立てる境遇に感謝し、その源は心身の健康と教育への情熱と気力であることを強調したい。柏陽時代の修学旅行先の萩で自筆の生涯現役の文字が入った秋焼きの湯飲茶碗は四十代の若さを彷彿とさせ現役を続けるエネルギー源にもなっているのである。

私の教職歴を回顧する時、最初に教えた小・中学校の生徒達が四十年経った今でも毎年定期的に同窓会を開いてくれたり、今年三十九年ぶりに訪れた卒業生(現在は県下でも有数の学習塾を経営)から七月末に届いた手紙に「いつも先生の教えられた英語が私の基本となり、自信の基本となって私を励まし育て知性の扉を開いてくださり、一生徒の人生の扉を開くことのできる教師こそが成功の人だと思います。」と書いてくれたことは教師冥利に尽きると言えよう。

日頃から私は健康と目標に向かっての気力と情熱が人生を生き抜く三大要素と信じている。特に情報社会の氾濫する現代社会では心身の若さと健康を保つためにストレス解消の自分なりの秘訣(趣味・スポーツ・楽しい秘密など)を持つことが肝要であろう。

「柏陽の桜」を夢みて

林田 良幸 (理科)

私は柏陽に一九六九年四月、三期生と共に赴任した。この一九六九年という年は、おそらく多くの人は忘れ難い年となったと思っている。それは七月二十日アポロ十一号で人類初の月への第一歩を印した年であった。一学期終わりの日で、「いい食堂」で昼食をとりながらTVに映し出されている映像に感動したことを鮮明に覚えている。それから二十三年、柏陽という環境が私に与えたものは多くあったが、中でも次の二つのことは忘れ難く大切なものとなって心の中に残っている。

一つは人との出会いである。毎日の仕事を楽しくこなせてくれたのも、多くのいい職員と出会えたことである。特に四六時中顔をあわせているメンバーには恵まれた。彼等は私にはないものを持ち、良いにつけ悪いにつけ、それが「師」となることが多かった。个性的で言いたい放題意見を互いに言いながらもまとまっていく、お互いに相手を思いやるものがあり、それが協力を生み一つの仕事仕上がりがつてゆく、そんな職場であった。

二つ目は校舎改築に携わったことである。校舎の配置の検討に始まり、学校としての意見や要望を設計図に盛り込んでもらうための仕事であった。厳しい、大変しんどい仕事であったが、文句を言いながらまとめていたスタッフに恵まれたことは、やはり人との出会いに繋がっていることであると思う。

私は一九九〇年に柏陽を去つたので、新しい施設での生活はしていない。これだけ長い間お世話になった学校に何か自分の「印」を残したいという動物本能的なものを持っていた。樹木なら五十年、百年と残るだろうと考え枝垂桜を何本か植えてもらった。できれば春、満開の花の下で皆さんが集えるよう、また、近隣の人達からも「柏陽の桜」と噂にのぼるようになることを夢みている。

部活を振り返って

菊地 武夫 (理科)

通算三十八年の教員生活を引退し、六年が過ぎようとしています。柏陽高校には、開校して二年目の年から二十七年間勤務しました。在職期間を通して、クラブ活動で、生徒と共に身体を動かして汗を流したことが強く脳裏に焼きついています。

当初、杉山、林田、木村の各先生方と共にテニス部の顧問をしましたが、ネット代わりに荒縄を張り、テニスコートと呼ぶには程遠い状況の中で練習したものでした。時には、乗用車でローラー代わりにコートを踏みつけたりしました。条件の良いコートで生徒が練習できるようにと思い、土日を利用して他校での練習試合をお願いしたものでした。でも、草創期の生徒は不自由さをもとめせず、練習に励み、県大会では、そこその成績を収めていました。当時は純朴な生徒が多かったように思います。また、学校には内緒で山中湖での合宿を実施したのも良い思い出となっています。

数年のテニス部顧問を退き、ワンダーフォーゲル部の顧問になったのは十一期生が入学したときでした。部の創設時に関わった関係で、再び顧問を引き受けたのでした。当初は部員数も十数名でしたので、家族的に活動していました。年々、部員が増え続け、枝迫、メ木、杉山、櫻井の各先生方に、山行に付き添っていただいたこともあり、安全に登山活動が出来ました。

残念なことに、現在、ワンダーフォーゲル部が休部中とのこと。最盛期にはバス二台を借り切つての山行を実施したのに。前島、藪野、鈴木、高橋、宮崎の各顧問の先生方と安全登山に心がけ、楽しく顧問の活動ができました。部活動で、同じ釜の飯を食べる生活をすることもあり、卒業後も部のOBとの交流も活発で、インターネットを通して連絡をとりながら、OB会やOB山行に参加し、当時の思い出話を花を咲かせています。

世界史を語ろう

佐藤 司 (社会)

ぼくは高校生のとき、世界史とラグビーが大好きになって、そのせいでこの職業を選びました。なぜそんなに嬉しそうな顔で授業するの、と訊かれたこともあるほど、ぼくは嬉々として授業をしていました。だって楽しいんだもの。

でも、物足りなくもあつたんです。なぜって、決定的に時間が足りなくて、きつちり二十世紀まで話すことはほとんどできませんでした。ぼくのやり方がマズかったのも一因ですけど。で、いつも消化不良の気分で一年を終えていたわけです。

歴史学は面白い。教科書や授業は、権力と暴力と経済力ですべて語られている印象ですけど、「にんげん」って、そんなに薄っぺらじゃなくて、色々興味深いことをしでかす生き物だから、歴史の細やかな襲の中を旅してみようと考えれば、たくさんのテーマが思いつくし、そんな役立たずの世界史の授業もしてみたくありません。そんなチャンスは、でも残念ながらあまりありませんでした。

理系、文系、得手、不得手。ぼくはどちらかというと不得手のカタマリみたいなもので、コンプレックスがたくさんあるけど、「勉強」のワケ組でそんな壁を自分で作ってしまった青年期のぼくにイラ立ったりします。だって、色々なことを知っている方が絶対に楽しい。楽しいから人間は考えてきたのだし、学問してきたのではないでしょうか。柏陽高校の教壇で、ぼくはそんな風に思ったりしていたのです。

三年生の必修世界史の授業を担当していたとき、いらねえ科目の代表と呼ばれても、

だからぼくはあまり気にしませんでした。いらねえ科目で結構。でもいらねえってのは受験には不要っていうことだろうけど、理系だろうが何だろうが、歴史ヨタ話にも意味がある。知らないより知っていた方がいいもの。

説教になつちやうのはぼくに似合わないから、もうやめましょう。でも、勉強するってやっぱり楽しいことだとぼくは三十過ぎて分かりました。ちよつと、遅すぎたかな。

柏陽生の誇り

本谷 守 (一期生)

昨年秋季に同期会があつて先生方八名と四十七名の一期生が集まりました。みんな五十歳を過ぎています。高校生のときは考えもしない遠い先の年齢だと思つていました。送られてきた写真にはみんな本当にうれしい気持ちで一杯という表情をしています。柏陽の三年間に感謝です。

柏陽創立十周年と二十周年の記念誌を読みました。柏陽の息づかいが時間を越えて聞こえます。「柏陽高校は燃えている」と言われるような学校にしたい、と述べた一期生角田尚子さんの文章(昭和四十二年五月六日・開校記念誌再録)は、二百名の新入生と十七名の教職員皆様の共通した気持ちだつたと思います。横浜全域と湘南エリアから集まった思春期の面々は入学当初誰もが素直にはなれなかった事情があるかもしれませんが、休憩時間、校庭一面に敷かれた芝生上での寛ぎは、すべてを氷解し、柏陽生としての喜びと連帯を多くの仲間が持ちえたように思います。一年生の夏休み

で船旅をしたり、二年生の春休みには渡辺寧、水沢繁男両君と東北一周を各駅列車(二部蒸気機関車!)で行きました。今の自分たちなら、国外旅行を全て実行しているかもしれません。

現在の仕事は、福祉の仕事です。すでに二十年程になります。まさか福祉の仕事をするとは考えていませんでした。重度の身体障害を持つ人の介護の仕事で、現場に入つて自分に合う仕事だと気付きました。横浜から藤沢に移りましたが、ここは創立者が全盲の方で、ご夫婦で障害者のために働く場と生活の場をつくり上げ、困った人があれば相談に乗り、具体的な支援に入ります。福祉の制度は新しくなっていますが、現実には非常に厳しいものです。障害を持つこと自体大変なことですから、社会の仕組みに福祉を優先すべきものの一つにできればと願います。

柏陽生としての誇りをうれしく思います。教職員の皆様にお礼を申し上げます。

前だけを見て

浅岡 知俊 (二十九期生)

卒業して早六年になりますが、高校の頃の思い出というものは今までの人生の中でもいつの時期にも増して印象の深いものです。当時はやはり他の同級生と同様に何に対しても興味を示し、何事に対しても興味を示し、何事をも新鮮に感じる時期でした。

今でこそ文武両道だの何のと言われますが、在学中の成績はひどいもので学力テストも毎回当然のように下から数えた方が早いという順位でした。今もその頃と比べて何が変わったという訳ではありません。ただ不器用だったが故にその場その場で目の前の

一つの事に必死になって向かってきただけです。特に高校時代は遊びたい盛りでもあり、時間を見つけては一所懸命に遊ぶようにしていた記憶があります。ただ、今考えれば、心から遊べていたかという疑問で、やるべき事をやらずにいると心のどこかで楽しいめな自分がいました。そんな葛藤の中でとにかく無心に、今はこれだけは誰にも負けたくないというものを見つけて、前だけを見て走り続けたというのが自分の高校時代といった感じですが。野球をやっているときは野球では、部を引退し受験勉強に入つてからは勉強では負けたくないという気持ちだけでした。結局、結果的に文武両道とはなつても、その実はあまり格好の良いものでもなく、もつと器用に要領よく文武両道をこなしていた同級生はいくらでもいたと思います。ただ、一つの事に対して没頭して集中するという姿勢では誰にも負けなかつたという気はします。まだ今でも高校時代と同様にその姿勢だけは大事にしようと思っていて、それを続けることで常に新たな自分に出会えることを信じています。きつと現役生の皆さんの中にも自分と同じように不器用な人や、やるべきことに迷っている人がいると思いますが、自分に正直に一つの事に没頭してみるのも時には大切なことだと思えます。後悔だけはないように精一杯生きてみてください。





▼濱島 辰夫(英語)

輝かしい実績を挙げ、近く創立四十周年を迎える由、ご同慶のいたりです。

草創期の柏陽での得難い体験は後にさまざまな形で生かされてきたことをあらためて感じています。

定年退職後、十年非常勤で講師を勤め、今、仕事から離れて三年目となります。何か用事を見つけてはマイペースで歩くなどして体を動かすようにしています。積まれた本は中々低くならないが気長にやってみようと思っています。

▼澤田 有孝(国語)

名簿作りに係わった役員や幹事の皆様、ご苦勞さまでした。私も、かつて名簿作りに参加した事がありますので、よくわかります。でも、この一冊が新たな一歩になるのですよね。私は現在、県立磯子高校で教鞭を執っています。ここで三校目ですが、柏陽の教え子やかつての同僚と別の場所でもた同僚になったりする機会も多く、世の中広いようで狭いような、そんな毎日を送っております。皆様もお元氣にお過ごし下さい。

▼吉澤 近(社会)

年齢相応にあちこち故障はありますが、完全に仕事を離れた二〇〇〇年の夏から週一回のコース練習と、時々の旅行で、ぼけ防止に努めています。

この夏は全くの異常な暑さのヨーロッパに二カ月余滞在し、七月三十日には念願だったポツダム行き、米英ソ首脳会談が行われてポツダム宣言が出されたツイイリエンホー

フ宮殿を訪ねました。五十八年前の歴史の現場に立って、現在の日本の原点を深く感ずることができました。

▼大谷 亘(社会)

「大谷さん、地区の民生委員です。きょうは独居老人の調査に伺いました。お元氣ですか。」こんな年齢になりました。昼間は一人で、家事全般を切り盛りしています。

十五年前に「かみさん」を亡くし、いまだに独り者の息子と男世帯という、何者にも支配されない日々を送っていますが、同い年の高校・大学の友人の中には、まだ現役バリバリの奴がいるのを考えると、寂しさも感ずる、この頃です。

▼緒形 助正(保健体育)

柏陽では、二十四才から三十四才までの十一年間を剣道に明け暮れ、大変充実した毎日を通り過ぎていただきました。当時の剣道部や担任クラスの卒業生十人以上が、私を反面教師として立派な教員生活をおくってくれていることは、非常に嬉しいことです。

現在は、母校の県立横須賀高校に勤務し、SSH協力校として柏陽と親しくしていただいています。「ああ、栄えあれ、我が母校柏陽」いつもの発展を祈っております。

▼露木 時男(社会)

○草創の意気にし燃えて励みたる
師弟一如の歩み懐かし
○基礎学力の話題の繁きこの国の
行方に向う児らの幸せ

○学ぶとは一生の業と知る

われの手習ひ初めし敷島の道
近況報告のご依頼を受けて、感慨も新たに折々に同期会のご案内を受けて、柏陽高

校へ参るのが楽しみです。退職後は当時を思い出したり、教育界の現況に一喜一憂しながら、市民の生涯学習教室に微力を注いでおります。皆様のご健康を念じ上げつつ。

▼高橋 善弘(数学)

柏陽には、十四年間お世話になり、十九、二十四期と三回の卒業生をだすことができました。その後、川崎工業、金井と転職し、今春より川和におります。部活動は、ワングル、演劇ともに縁が薄くなり、ここ数年は弓道部の顧問をしております。また、東京に転居し、十五年目を迎えました。今は、卒業した皆さんとバツタリ出会うことが小さな楽しみでもあります。

▼河内 龍男(理科・物理)

創立五年目に着任しました。生徒との個人面談で「柏陽などに入ったら大学へは進学できなと言われて入学してきました」と生徒の一人から聞いたときには私の教員生活最大の驚きでした。しかし教えてみると皆素直で学習意欲に満ち、レポートなどは各自が努力して他人のものを写したものは全くなく、卒業時にはすばらしい学力を身につけ、一流大学にも多数合格しました。この生徒たちが今の柏陽の礎を築いたのだと確信しています。

▼池田 康雄(英語)

開校して三十六年、柏陽周辺の街路樹は大きく成長し鬱閉気は一変しました。一期生諸君との春の大楠山遠足、夏の檜洞丸登山等はなつかしく思い出します。

私はお蔭様で健康に生まれ元気に過ごしています。高一の時、父に連れて行かれてから山が好きになり、以来現在まで時間があれば山行を楽しんでいます。奥秩父・八ヶ岳・南アルプスへ行くことが多く、行く度に山の大き

さ、奥深さ、美しさ、そして静けさに感動しています。

▼津田 信勝(社会)

七十九年から十四年間お世話になり、その間十四、十七、二十一、二十三期の諸君の卒業を見送りました。部活はバレーボール部一筋でした。ロクな技術もない顧問の指示をよく聞いてくれ、盛り立てていただいたと感謝しています。クラス・部活の多くの卒業生と今もなお年賀状などの交換を続けています。九十三年に汲沢高校に転勤して十年、この三月末に定年退職をし、現在再任用で厚木商業高校に週三日勤めています。

▼柳田 光紀(国語)

柏陽在任十七年。最後の二年は中国の大学へ派遣講師として出張。帰国後、光陵・藤沢西高で定年。退職後、非常勤講師を経てやっと自由になった途端、公民館の成人教育で源氏物語講読講座や、篆刻、書道も教えるという「閑中の至楽」とは無縁の日々を送っています。目下、第三詩集と評論・エッセイ集の出版を目指して、書齋での悪戦苦闘が続いています。

▼仲里 朝幸(数学)

柏陽高校は、開校以来、歴代の校長を始め、教職員の弛まぬ努力と在校生の情熱が傾注されました。卒業生、PTA、近隣の中学校、地域の方々からも心のこもったご支援に支えられて、現在見るような、内容、外観共に充実した素晴らしい教育環境を作り出すまでに至りました。四期生、六期生、九期生の卒業時の担任として、柏陽に在職した十一年は私の人生の財産として残っております。平成九年度に定年退職後、鎌倉女子大学に五年間、現在は公文国際学園に勤めております。

▼荒井 久男(数学)

現在は私学で非常勤講師をしております。他校生ですが、出会いには自分の名前も書けない高校生がいたかと思うと東大付属病院長になった武谷雄二君もいました。

NHK記者の小川君がテレビに出た時、柏陽野球部の大声と汗のグラウンドを思い出しました。十七年間も顧問をやったかなーと。

▼吉井 和夫(保健体育)

私は現在逗葉高校に勤務しています。皆様お元気ですか。

私にとって柏陽における最高の出来事は創立五年目に国民体育大会レスリング競技で三期生の岡部高明君が優勝し日本一になった事です。感動しました。

当時戸塚区(現戸塚・泉・栄区)にできた最初の県立高校で柏陽に寄せる県民の期待は絶大なものでした。全体が一丸となって学業に励んだ結果でした。

▼鈴木 則和(数学)

現在、神奈川県でいちばん西にある湯河原高校に勤務しています。柏陽とは違った風景、青い海や箱根山を毎日見ながら勤務しています。我が子も高校生になり、高校生の親の気持ちが実感する歳になりました。私を見かけましたら、声をかけてもらえらうれしいです。

▼荒井 陽子(理科)

私が柏陽高校に着任したのは、昭和四十五年九月でした。当時はまだ京浜東北線は開通していないで、通勤・通学はバスのみ。大船駅もバスターミナルもなく、京浜女子

大(現・鎌倉女子大)、柏陽の生徒、それに

通勤の人たちともうゴチャゴチャの状態でした。今の市営住宅は米軍のかまぼこ兵舎が幾棟も建ち並び、「えんしゅうや」さんの前の橋の中央にはPXのゲートがありました。そんな中にまだ無名に近い柏陽高校があり、その後大きく成長していったのです。

▼前島 健治(芸術・美術)

お久しぶりです。古い校舎の頃の理科棟や芸術棟の間の通路や中庭を行き交う生徒たちと、その時代ののんびりした感覚をなつかしく思い出します。現在は、東白楽にある、神奈川県総合高校(単位制・普通科)に勤務しています。

▼櫻井 隆一(理科)

平成十三年三月に定年退職し、二年目です。現在、県立総合教育センターの非常勤教育相談員として県教育庁教育相談室勤務です。柏陽高校に着任して間もなく男声合唱団に、昭和五十年からは混声合唱団に入団しなおしました。定期演奏会に出演できないときもありましたが、今は月二回の練習を殆ど休まず楽しんでます。柏陽時代のもう一つの楽しみの化学実験は残念ながらお休みです。柏樹会会員の皆さんの活躍を楽しみにしています。

▼大森 儀郎(理科)

柏陽を離れて十五年、今は久里浜高校です。今年の夏休みには、久しぶりに生徒に物理を教えました。自分では気の利いた授業をしたつもりなのに、生徒のウケは今ひとつ。自信があったはずの柏陽での授業も、今から思えば本当はどうだったのかと心配です。

息子が三年間お世話になったこともあつ

て、柏陽への思いは人一倍です。係わった生徒たちの活躍を見聞きするたびに、柏陽時代が懐かしく思い出されます。

▼鈴木 正明(理科)

昭和五十八年四月〜平成九年三月までの十四年間、お世話になりました。理科を担当し、ワングル部、理科部の顧問でした。柏陽高校は進学、部活動と、ともに勢いがあり、着々と実績を積み上げ、様々な分野で記録を更新していったように思います。その時代に教諭として充実した時を過ごせたことは幸運でした。当時、特色づくり推進に熱い思いがあり、力を注ぎました。その後、スーパーサイエンスハイスクールに選ばれたとの報を聞き、感無量でした。ご発展をお祈りいたします。

▼小澤 明夫(社会)

松陽高校校長で定年を迎えるはずのところ、一年前に三浦ふれあいの村初代所長になり、そのまま三年居りました。その後、鎌倉女子大で歴史と社会学を教えて再び定年を迎え、現在は週三日、専門学校で社会学と教育学を教えています。その他の日は孫の世話と区内の歴史講座や歴史散歩の案内、週に二日のスポーツ・センター通いと、山登り・沢登りなどで体力の維持を心がけています。ありがたいことに何とか元気で毎日を過ごしています。

▼小野 正作(国語)

柏陽には十年間お世話になりました。その間校舎のリフレッシュ、体育館の建て替え、三十周年式典、二期制への移行がありました。部活はソフトボール部で、いつでも部員が多く愉快にやることができました。また毎年理科部の生徒が中庭に小さな田ん

ぼを作りましたが、その稲の苗は私の家から持って行ったものでした。娘(36期生)が生徒としてお世話になりました。相変わらず柏陽高校への関心を強く持つております。

▼山中映二郎(国語・書道)

週に一度横浜市立大学国際文化学部で「文学史」と「書道」の講座を担当、今年で二十八年目。高校・中学を入れると教員歴は五十年にもなります。また、書家として年間十数回の書展に出品する作品の制作や長年育ててきた門人たちの指導、それに、大学時代の友人と共同で月に一度発刊する書道雑誌の原稿の執筆など、現役時代には考えも及ばなかった超多忙。そろそろ仕事を整理し、総決算の個展の準備を考えている昨今です。

▼河合 義昭(二期)

現在、横浜市教育委員会指導課に勤務しています。教育課程、学校二期制、危機管理など様々な教育課題に取り組んでいます。柏陽高校相撲部で培った粘りと根性で頑張っています。

昨年、同期会がありました。我が家では毎日が同期会ですが、久しぶりに同窓生に会い大変懐かしかったです。二組の出席が少なくても残念でした。これからも健康に注意して、元気に過ごしたいと思えます。柏樹会の益々の御発展を祈念致します。

▼松本香代子(旧姓宮部)(二期)

先日鬼の霍乱で胸膜炎で二週間入院して、会社を一ヶ月休んでしまいました。毎日残業続きの生活が、字も見たくなくてクラシック音楽を一日中聞いていました。こんな

にボケツとしたのは本当に久振りでした。毎日来てくれる家族のありがたみが身にしみました。

私の病気で、塾講師のバイトをしながらロックバンドをしている息子が、すっかり料理に目覚めて料理本を片手に食事を作ってくれるようになったのは大収穫でした。

佐相ひとみ(旧姓宮越)(三期)

私は現在中華料理店を営んでいます。渥美清さんが通っていた店です。大船撮影所も女子大になり、お客様の顔ぶれも変化しました。それでも、「昔と同じ味だね。」「久しぶりに来たよ。」などのお声に励まされ、頑張っ

て働いております。出立川という名を持つたち川のもと幾人の仲間たちが巣立って行ったことでしょうか。息子(二十九期)も高校教師二年目です。自分の出で立ちを思い出しながら若人の希望ある門出を祈っております。

青木 昌一(四期)

四期の仲間は元気があり年に何回も会合を開いています。幹事の野村君ご苦労さまです。

光陰矢のごとしと言いますが私は卒業して三十一年、税理士になって二十年経過しました。

私の所属する税理士業界は一匹狼の集団に見えますが実は収入に関してのみで全て組織として活動しています。そして次の時代をになう若い税理士が増えていません。学生諸君、税理士をめざしませんか?進路相談については連絡下さればのりです。

浅井 昌大(四期)

現在は耳鼻咽喉科医として臨床に携り、特に舌癌や咽頭癌といった頭頸部癌の治療

を専門としています。狭い分野ですがトツプクラスの診療医との評価を戴き、今後も精進して恥ずかしくない診療を行いたいと思っております。専門知識以外に、高校時代での一般常識やゆとりが診療での裾野を広げているようで柏陽の先生方やご迷惑をかけた級友には深く感謝しております。

矢部 博(四期)

柏陽高校卒業生の皆様こんにちは。昨年から柏樹会副会長をやらせていただいています。今後とも卒業生同士の接着剤として務めてまいります。

我が母校は名実ともに本場に立派になりました。そして現在も進化しつづけています。先生方のご努力に感謝いたします。特に理工系離れが取りざたされている昨今、全国でも有数のスーパーサイエンスハイスクールに指定され、柏陽高校は理数・科学分野の教育水準が高い評価を受けています。また、学問のみならずスポーツも盛んであると聞いています。さらに、校舎も立派になりました。体操部員として毎日使った体育館など、私がいた頃の姿はもうありませんが、全面的に改築されてきれいになりました。毎年四月に開催される柏樹会総会の折に是非、母校に訪れてください。柏陽高校をながめながら柏樹会の今後を語りあいましょう。

相原 正弘(五期)

昨年柏樹会の会員名簿を頂いてから高校時代が懐かしく昨日の事の様に思い出されます。現在校長の佐藤春夫先生は、三年生

当時は理系一組の担任だったと思います。当時の先生は迫力のある大きな声で数学の授業をされておりまして、先生の声が小生のいる二組にまでよく聞こえてきた事を記

憶しています。さて近況はというと、平成十五年七月より横須賀市に介護老人保健施設「野比苑」を立ち上げ、現在そこに勤務しております。高齢化社会を迎え、一人でも多くの人生の先輩達と接することにより自分を少しでも磨けたらいいなと思ひ頑張っています。

菅原 淳子(旧姓土岐)(十二期)

「柏陽」時代の思い出は、いつでも新鮮に昨日のこのように甦って参ります。なぜなら、獣医師として動物病院を開業しております夫は十一期生ですし、同業者である夫の兄は九期生なのです。そして、何より我が十二期生の二年三組だった仲間を中心に、二十数年経った今でも、それぞれ皆、世界や日本各地に点在しながらも「メーリングリスト」をつくり親交を持っています。「柏陽」の友は、私にとって宝であり、今尚、進行形です。

伊藤 整(十六期)

高校を卒業してもう二十年経とうとしています。私の高校時代は、先生・先輩・友達・後輩に非常に恵まれていたと思います。皆元気だろうかと時々思います。時代は変わり、今は夢を持ちにくい時代と言われています。夢は、人から与えられるものではないと思いますが、大人が社会的な環境を整えてあげることが必要なことだと思えます。柏陽高校という枠を越え、少しでも役に立てればと思っております。

安西 稔(十七期)

地元で印刷業、葬祭業を営んでおります。卒業生のがんばりのおかげで、「柏陽出身です」はとてもいい響きをあたえるようです。皆様に感謝しています。

江崎 友香(旧姓萩)(二十期)

大学を卒業してから五年間、横浜市立高校の国語科教員として勤務していましたが、結婚のため退職し、夫の住む下関に参りました。その昔修学旅行で訪れた、あの山口です。今はこの土地にも慣れ、息子たちも四歳と二歳になり、楽しく生活しています。下関弁はまだ身につきませんが、そろそろ仕事を持って、新しい環境に身を置きたいと思う今日この頃です。遠方ですが、お近くにお越しの際は、お声をおかけください。

角田 和樹(二十四期)

先日、品川新駅が開業しましたが、世の中ますます時間の短縮が進んでいますね。同時に慌しさも増している気がしますが、私もご多分にもれず目まぐるしい日々を送っています。会員名簿の時に広告させて頂いた事業もおかげさまで法人化し、少しずつですが実績をあげさせて頂いております。栄区在住の同窓の皆様、建築・リフォームの「旬ふじやま」が目にとまりましたら、是非お声をおかけ下さい。サービスマンです!

36期(平成17年3月卒)

同期会のお知らせ

36期のみなさんお元気ですか?柏陽高校を卒業してあつという間に2年がたちました。来年には成人式が待っています。そこで、36期の同窓会を開きたいと思っています。久しぶりに会ってたくさんお話しませんか?

日にち:平成19年1月8日(月)
夕方(16時頃からの予定です)

幹事:3組:若林 4組:増田
6組:三上・杉本・脇田
8組:石山

場所や時間に関しては、まだ決まっていません。決まり次第連絡したいと思います。

36期(平成17年3月卒)

平成17年度 事業報告

(部活動大会出場祝い金)

関東大会

レスリング部

(春:個人2名、冬:個人2名)

バドミントン部

(団体)

テニス部

(団体)

陸上部

(個人)

吹奏楽部

(団体)

高校総体

陸上部

(個人)

(SSH)

1年生 「科学と文化」発表会補助

(寄付)

合唱クラス練習用キーボード

14台

延長コード

14本

卓球場用大型扇風機

2台

垂れ幕(関東大会出場、入学式)

2本

垂れ幕取り付け用器具

1式

(創立40周年記念)

キャリアアプラニングルーム旧進路資料室

(旧進路資料室)

改装工事、キャビネット



① 母校創立40周年

(キャリアアプラニングルームへの備品寄付)

② 部活動支援

部活への援助

③ 同期会への補助(学年同窓会通信費)

(関東大会、高校総体への出場祝い金)

④ ホームページの充実

⑤ 会報の発行

⑥ 新しい同窓会作り(各期代表者会議の開催)

母校よりお知らせ

(来校時の入校許可証・駐車証の発行について)

皆さんご存じと思いますが、部外者は入校時に申請が必要です。来校の際は事務室で記名して、入校許可証を着用してください。

来校するときは公共の交通機関をご利用ください。もし、自家用車で来校したときは、必ず事務室で駐車許可証を受けとってください。また、校内は必ず徐行して生徒の交通安全の確保にご協力をお願いします。

(各種証明書の発行について)

卒業証明書(一通400円当日発行できます) 調査書(一通500円 発行まで1週間かかります) 成績証明書(一通400円 発行まで1週間かかります) 証明書については、一定期間が過ぎると発行出来ない証明書もあります。詳細については柏陽高校事務室へお問い合わせください。

(教育実習の受付について)

教育実習は毎年11月上旬に行っています。希望される方は、前年の4~5月に柏陽高校まで申し込んでください。諸氏は6月中にお知らせいたします。

(総会の案内)

柏樹会の総会は、毎年4月の第4土曜日、午後2時から柏陽高校で行われます

(異動連絡のお願い)

住所変更等の異動がございましたら、事務局まで郵便でご連絡ください。

〒247-0008 横浜市栄区柏陽1-1 県立柏陽高校内 柏樹会事務局 宛

卒業年(できましたら3年次のクラス番号)、お名前、連絡先、異動内容(住所変更、お名前の変更、計報等)をご記入ください。

(個人情報扱いについて・注意！)

クラス会や同期会の幹事さんに「出席できないけど名簿がほしい」という連絡があるときは、必ず個人確認を行ってください。最近では悪徳名簿業者があらゆる手を使って名簿を手に入れようとしています。身分を証明する書類(保険証等)も偽造するという事例もあります。くれぐれもご注意ください。

本校の会員名簿や会報の作成・発送は㈱サラトと正式に委託契約を結び、お願いしています。㈱サラトは、個人情報について適切な保護措置を講ずる体制が整っていると認定され、経済産業省の外郭団体である(株)日本情報処理開発協会から「プライバシーマーク」を取得した会社です。

(人材バンクの登録について)

柏陽高校ではキャリア教育の一環として、先輩の話聞く機会を作る企画を進めています。平沼高校では「先輩セミナー」という名前で講座を開いています。その他にも小田原高校などの伝統校では卒業生が現役生徒に幅広い分野で講演会や講義を行ったり、補習授業をしています。来年の4月には概要が定まるとありますが、会員の皆様のご協力をいただけますようお願いいたします。

(登録先) 県立柏陽高等学校内

TEL 045(892)2105(代)

TEL 045(892)2105(代)

TEL 045(892)2105(代)

TEL 045(892)2105(代)

TEL 045(892)2105(代)

TEL 045(892)2105(代)

TEL 045(892)2105(代)

TEL 045(892)2105(代)

TEL 045(892)2105(代)

TEL 045(892)2105(代)

TEL 045(892)2105(代)

TEL 045(892)2105(代)

TEL 045(892)2105(代)

計報

(平成14年~16年) ご冥福をお祈りいたします

Table with 3 columns: Name, Position, and Tenure. Lists names like 碓井 克巳, 林田 良幸, etc.



平成17年度 一般会計報告

Income and Expense Statement for FY17. Includes sections for '収入の部' and '支出の部' with amounts and descriptions.

平成18年度 予算

Budget Statement for FY18. Includes sections for '収入の部' and '支出の部' with budgeted amounts and descriptions.